

創刊 満66年記念号!

# Latina

ラティーナ 世界の音楽情報誌

2018

5

M A Y O

昭和40年3月30日第三種郵便物認可  
平成30年5月1日発行(毎月1回1日発行)通巻771号

リニューアル!

特集：中南米を旅する ～音楽家たちが見た中南米の景色～

中特集：シルビア・ペレス・クルスとカタルーニャの音楽シーン



Silvia Pérez Cruz



# ラテンアメリカ ノイズの旅

文と写真●大友良英  
texto e fotos por OTOMO YOSHIHIDE

ミュージシャン  
1959 生。ノイズや即興がホームの音楽家。  
「あまちゃん」はじめ劇伴も多数。震災後は故郷福島での活動も。  
<http://otomoyoshihide.com>



右上 ブラジル、リオデジャネイロでのワークショップ / 右中 アート・リンゼイとわたしのギター / 右下 ブラジル、リオデジャネイロ、ホルテラ打楽器隊の練習風景。 / 左上 メキシコシティで見たオアハカの brass band が素晴らしい。 / 左下 アルゼンチンの CCK。

文化庁の文化交流使に任命されたのは昨年(2017年)の初頭。いつも行っている欧米やアジア以外の国々にといい、これまで行っていない国で、私を呼びたい方連絡ください。地元音楽家と共演したく——

とフェイスブックに書き込むと、その反応のほとんどが中南米の即興やノイズ系の音楽家から。中南米にもこんなに特殊音楽好きがいるのかってことと、自分の音楽が地球の向こう側で敬意を持たれていることに驚きつつ、目的地を中南米に決めました。ということで11月から12月にかけての1ヶ月半、アルゼンチン、チリ、ブラジル、メキシコをツアーしたときの様子をレポートします。(ツアーの様子は同行してくれた映像作家樋口勇輝の手で撮影編集され「Otomo Yoshihide Laten America Tour Movie 1-22」のタイトルで全てYouTubeにアップされています。参照しながら読んでいただければと思います。)

アルゼンチン ブエノスアイレス

ARGENTINA BUENOS AIRES 2017/11/1~9

学生だった80年代初頭からアストル・ピアソラやメルセデス・ソサ、ガトール・バルビエリの大ファン、ブエノスアイレスにいただけでうきうきしてました。ここで私を最初に出迎えてくれたのは、長年現代音楽や即興音楽をやっているピアニストのファビアナ・ガランテ(Fabiana Galante)とサククス奏者のルイス・コンデ(Luis Conde)。この二人が中心になって大学では講義やワークショップを、インディペンデントスペース「Domus Artis」で、地元の即興系の音楽家たちとの静謐かつ緊張感ある即興セッションやレコーディングを組んで



上段右 ビクトル・ハラが修復されたスタジアム / 上段左 チリでのソロライブ / 下段右 SANTOS4040で企画している「La Grande」に参加。サンティアゴが独自にみだしたコンダクション(指揮によりサインを出しおこなわれる即興演奏)は、南米で最も注目されている即興演奏方法のひとつ / 下段左 アルゼンチンでのワークショップ

くれました。

それとは別に、日本にも度々来ているアルゼンチン音楽系の重鎮ギタリストのフェルナンド・カブサッキのアレンジでCCKという大きなホールでサンティアゴ・バスケス、モノ・フォンタナ、マティアス・マンゴ、フェルナンド・サマレア、セルヒオ・ベルディネッリ、バルバラ・トガンデル、マリانو・ドミンゲスとセッションをしたり、サンティアゴが毎週火曜日に「サントス4040」というクラブでやっているイベント「La Grande」にもゲスト参加しました。「La Grande」は十数名の様々な楽器奏者がサンティアゴの繰り出すサインで即興的にアンサンブルを組んでいくというもので、入れ替わりで数十名の演奏家がいちばん複雑で実験的なのにダンサブルでポップ。会場にいた200人以上の聴衆がアバンギャルドな即興演奏にもかかわらずダンスしまくるという最高のライブでした。あまりに面白かったんで、8月末東京タワーでやる予定のフェスティバル「アンサンブルズ東京」にサンティアゴを呼んで、楽器を持ち寄った人たち自由参加で200〜300人規模の巨大な日本版「La Grande オーケストラ」をやればって思っている次第。そのうち情報出しますので、みなさんも楽器持っただけでぜひ参加してください。音楽経験は不問、だれでも参加できるようにします！

チリ サンティアゴ

CHILE SANTIAGO 2017/11/9~16

現地の即興シーンの中心人物、端正な即興演奏のギタリストのラミロ・モリナ(Ramiro Molina)が私を出迎えてくれました。彼の企画でESPACIO FEGUALDAやESPACIO1192という

とにかくにも、ブラジルでの20日間は自分の人生史上でも最高に幸せな時間でありました。

スペイン等で地元の音楽家とワークショップをやったりライブやレコーディングをしたり。そんな中でもオルタナティブなロックの影響を感じるギタリストの Roberto Zamora (ロベルト・サモラ) やドラムの Lorenzo Roman (ロレンソ・ロマン)、現代音楽的な奏法のコントラバス奏者 Amanda Irazabal (アマンダ・イラハサバル) の演奏は印象に残りました。

滞在中にどうしても見たかったのが73年の軍事クーデターの際にビクトル・ハラが惨殺されたスタジアム。もつと大きな競技場かと思っていたら体育館のようなところで、今はスタジアムにビクトル・ハラの名前が付いていて写真も掲げられています。周辺は賑やかな下町でホームレスも多数。残念だったのは建物あまり大切にされてない感じで中に入れなかったことかな。



上段右 リオデジャネーロ「Ação Social Pela Musica」でのワークショップ/上段左 アート・リンゼイとの録音/下段右 リオデジャネーロ、ポルテラへの練習会場で/下段左 ペロオリソンの自作楽器の即興演奏家 Marco Scarsattelli

なにを隠そう20代の頃は東京の某エスコラでスルドをやっていたくらいにサンバ好き。ブラジルってだけで最高に気分が上がりました。ポルテラの練習を見学したりショーロやサンバのライヴも沢山見に行き、ノイズや即興の人たちともセッションやワークショップ、レコーディングを多数しましたが、何よりも楽しかったのは、リオのヴィライ・イザベル地区にあるファヴェーラでクラシックを勉強している100人ほどの子供達のグループ「Ação Social Pela Musica」とのワークショップでした。めっちゃうまい子から初心者まで。基本はクラシックの楽器だけどサンバパーカッションの子たちも。詳しい様子はぜひYouTubeを見て欲しいけど、その場でどんな音楽が生まれてくる感じが最高で、リオの日本人学校でやった音楽の授業も同様に楽しい時間で、どちらもまた機会があればぜひ行きたいなあ。

今回私の日程に合わせて、サンパウロでもリオでもフェスティバルが開かれて、そこで数多くのブラジルの即興系だったりノイズ系のミュージシャンにも出会いました。とりわけ強烈だったのはベースのフェリペ・ゼニコラ (Felipe Zenicola)。彼には滞在中めっちゃ世話になりました(ドラムスの Marcio Gibson、Renato Godoy、そしてサンパウロ即興シーンの先駆者、パーカッションの Panda Gianfrati)。それからメキシコから来ていた最強のノイズサックス奏者 Martin Escalante。この人のソロサックスは今までに聴いたどんなサックス奏者よりもノイズでした。サンパウロでは即興シーンを引きいるギターリ

ブラジル サンパウロ、ペロオリソンのリリオデジャネーロ  
BRASIL SP ~ BH ~ RJ 2017/11/16 ~ 12/5

なにかと治安のことばかりいわれる中南米ですが、人が楽しく生きているってこの意味が理屈じゃなく伝わってくるような場所

ストの Mario Del Nunzio (マリオ・デル・ヌンジオ) や Paulo Hartmann (パウロ・ハーチマン) といった人たちが、ベロオリゾンチでは自作楽器の Marco Scarasati (マルコ・スカラサッチ) や Henrique Iwao (エンヒッキイワオ) が私を迎えてくれました。そうそうリオ在住の アート・リンゼイ とレコーディングも。これも凄かったですよ。他にもブラジルについては書きたいことたくさんですが、文字数の関係もあるのでこのくらいに。とにもかくにも、ブラジルでの20日間は自分の人生史上でも最高に幸せな時間でありました。

メキシコ オアハカ、メキシコシティ  
MEXICO OAXACA MEXICO CITY 2017/1/5~12

メキシコだけは10年ほど前フレッド・フリスと行ったことがあんで2回目です。ここでは日本から私以外にも「Sachiko M.」が呼ばれ、アメリカやアルゼンチンのミュージシャンも合流し、メキシコのサウンドアーティスト Gudiñ Corina (グディニ・コルティナ) と Rolando Hernández (ロナルド・エルナンデス) の主催でオアハカとメキシコシティで4日間にわたって「Umbra138」というアバンギャルドフェスティバルが行われました。驚愕だったのはドラマー Milo Tamez (ミロ・タメズ)。若い頃のハン・ベニंकを彷彿とさせるようなパワフルなのに繊細、かつユーモアのある即興演奏で、一緒にやっついて本当に楽しかった。圧巻は200人ほどの観客の前で超微弱音のミニマルなサインウエーブソロをやった「Sachiko M.」。普段はザワザワしがちなメキシコの聴衆が、彼女のソロの30分間、もの音ひとつ立てずに固唾を飲んで聴き入ってる様は感動的



右 Milo Tamez と  
左 Milo とのライヴ

### live schedule

#### ●清山飯坂温泉芸術祭

5月5日~6月3日の間の土・日曜日@福島飯坂温泉 旅館清山  
展示作品を発表予定

<http://www.pj-fukushima.jp/event/post-28.php>

#### ●やっついフェス

6月16日 @ 渋谷エリア12会場のどこか  
大友良英スペシャルビッグバンド+のん

<http://yatsui-fes.com/>

#### ●一般参加型フェス「アンサンブルズ東京」

8月26日 @東京タワー  
出演サンティアゴ・パスケスほか詳細は5月中に発表

<http://www.ensembles.tokyo>

ですらありました。ということでも本当に駆け足のレポートになってしまいましたが、なにかと治安のことばかりいわれる中南米ですが、人が楽しく生きているってこの意味が理屈じゃなく伝わってくるような場所でもあり、沢山の友人も出来、少なくとも私は身も心もめっちゃ元気になって帰国してまいりました。このあたりは東南アジアとも似たところがあり、できることなら将来、南米と東南アジアのミュージシャンたちを会わせるようなこともできたらいいなどと夢見たいなことも思ったり。とにもかくにもまた行きたいぞ！

## 次号予告

### ぼくらの音楽

ーポップミュージックとワールドミュージックの新しい関係ー(仮)

Cero Lamp TAMTAM 国府達矢 古川麦 民謡クルセイダース marcopoporo 他

※内容は予告なく変更になる場合があります。

★今月号の特集を読んで、とつてもわくわくして旅に出たくなりました…中南米の空は真っ青で、日本の空より青い気がするのは私だけでしょうか？今年はメキシコ経由でキューバに行くことが目標です！（岩佐智子）

◆今月から Spotify にて編集部で作成したプレイリストを公開しています。現在「New generacion of Music in Chile（知られざる現代チリ音楽）」「Evergreen Melodies From Contemporary Brazilian Music（胸キュン！ブラジル音楽）」がお聴きいただけます。編集部によるプレイリストは毎週水曜日更新。また各号に掲載されている特集を一通り聴きできるプレイリストなど今後充実させたいと考えております。Spotify のアカウントは latina\_magazine です。よろしくお祈りします。（宮本剛志）

◆今月号の特集では多くのアーティストのみなさんが協力くださり、中南米旅の経験をおすそ分けしてくださいました。無性に旅に出たくなります。（Lissa）

♥5月に来日するシルビア・ベレス・クルスのライブが楽しみで仕方がないです。7月のフジロックに行きたくて仕方がないです。そんな話を友人にしたら、「コンサートとかフェスとかってすごく高いし疲れるしどうして行くの？iPhoneで聞けばよくない？」と聞かれ言葉に詰まりました。確かに懐が痛むし（とりわけ日本はライブ代が割高）、フェスは疲れてクタクタになるけど、目には見えない価値がありますよね。

みなさんはどうしてコンサートに行きますか？（坂本悠）

◆おかげさまで、本号は満66周年記念号です。ありがとうございます。最近では、66歳のお祝いで緑寿祝い（ろくじゅいわい）というのがあり、テーマカラーは緑色ということです。しばらくグリーンを使いますかね（笑）

本誌と同年の有名人を調べてみました。坂本龍一さん、村上龍さん、イッセー尾形さん、さだまさしさん、カルメンマキさん、松任谷正隆さん、笑福亭鶴瓶さんといった方が同年ということで、いつかそんな縁で取材できたりするでしょうか。（花田勝暁）

#### 月刊ラティーナ

2018年5月号（通巻771号）

平成30年4月20日印刷 / 平成30年5月1日発行

定価620円（送料120円）

発行：株式会社ラティーナ LATINA CO.,LTD.

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-3-7-5F

1-3-7-5F, Ebisu-Minami, Shibuya-ku, Tokyo, Japón

tel : 03-5768-5588

fax : 03-5768-5599

e-mail : latina@latina.co.jp

web : http://www.latina.co.jp

発行人：本田健治 / Publisher : Kenji Honda

編集長：花田勝暁 / Editor : Katsuaki Hanada

編集部：坂本悠、宮本剛志、岩佐智子、宮ヶ迫ナンシー理沙 / Editorial Staff : Yu Sakamoto, Takeshi Miyamoto, Tomoko Iwasa, Nanci Lissa Miyagasako

企画部長：宮ヶ迫ナンシー理沙 / Director of Project Management : Nanci Lissa Miyagasako

輸入・販売：坂本悠、宮本剛志、岩佐智子、花田勝暁、東千都、宮ヶ迫ナンシー理沙

Staff of Import and Sale of CD, DVD : Yu Sakamoto, Takeshi Miyamoto, Katsuaki Hanada, Tomoko Iwasa, Chizu Azuma, Nanci Lissa Miyagasako

総務・経理：本田美登利 / Administrator : Midori Honda

印刷：プリ・テック / Printing : Pri-tech

### 社員・アルバイト募集

ラティーナでは、このたび、社員・アルバイト（若干名）を募集することになりました。ラティーナが紹介している音楽に興味があり、スペイン語を話せる方。まずは下記まで、写真付きの履歴書をお送り下さい。

〈募集人員〉若干名

〈職種内容〉CD輸入販売補助、雑誌編集補助、ステージ制作補助、web制作/映像編集補助

〈送付先〉〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-3-7 隅越ビル5F（株）ラティーナ人事担当係

※ e-mail での応募は、recruit@latina.co.jp まで

### 広告募集

月刊ラティーナでは広告を募集しております。広告についてのお問い合わせは、ラティーナ（03-5768-5588 または latina@latina.co.jp）まで。